

日本製粉(株) 第1四半期の連結業績および通期連結業績予想

日本製粉(株)(社長 近藤雅之)の平成30年3月期第1四半期の連結業績は、売上高802億円(前年同期比102.3%)、営業利益20億円(同71.9%)、経常利益28億円(同80.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益17億円(同65.6%)となりました。

< 連結業績の概要 >

(%表示は対前年同四半期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成30年3月期第1四半期	80,274	102.3	2,027	71.9	2,841	80.4	1,777	65.6
平成29年3月期第1四半期	78,459	103.1	2,818	133.3	3,535	119.9	2,708	127.7

< 連結業績のポイント >

- 売上高は、価格改定等の影響により製粉事業は減収となるも食品事業・その他事業の伸長により増収
- 利益面では、先行投資による減価償却費・広告費の増加により減益

< 連結業績の概況 >

当第1四半期におけるわが国経済は、雇用の改善や株価の安定を受けて、堅調に推移しました。一方で、可処分所得の伸び悩みから個人消費は依然として力強さを欠いており、デフレを脱却するまでには至っておりません。

食品業界においても、消費者の節約志向を背景に市場が伸び悩んでおり、価格競争が継続するなど、厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループはコスト削減と販売の拡大を軸に、従来の基本施策を踏襲した事業基盤の強化を進めております。変化が激しい事業環境に対応するため、本年6月に機構改革を実施し、全事業分野において業容の拡大とコスト競争力の強化に取り組むための体制を整えました。加えて、グループ会社を含めた生産拠点の見直し・整備にも積極的に取り組んでおります。

当第1四半期の業績につきましては、売上高は、食品事業・その他事業の伸長により増収となりました。利益面では、戦略的な広告宣伝活動に伴う広告費の増加等により減益となりました。

以上により、当第1四半期の業績は、売上高は802億7千4百万円(前年同期比102.3%)、営業利益は20億2千7百万円(同71.9%)、経常利益は28億4千1百万円(同80.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億7千7百万円(同65.6%)となりました。

また、かねて三菱地所株式会社と開発計画を進めておりました「(仮称)新宿南口プロジェクト(千駄ヶ谷五丁目北地区第一種市街地再開発事業)」については、2019年8月の竣工を目指して、本年6月より着工いたしました。

< 連結業績予想 >

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成30年3月期 第2四半期(累計)	165,000	105.5	5,200	96.3	6,000	98.9	4,000	96.4
通期	335,000	107.1	12,000	103.7	13,500	102.6	9,000	100.7

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、本年5月12日に公表いたしました予想数値から変更はありません。また、配当金につきましては、1株につき年間30円を予定しております。